

平成 28 年 5 月 20 日

相互訪問インターンシップ人材養成プログラム

(協定派遣) 参加者の募集

同プログラム担当
情報メディア環境学専攻 田村直良

(1) プログラムの概要(要約)

当プログラムは、海外大学での実習体験、英語でのプレゼンテーション、研究討論の実践、海外生活を実体験し、内向きになりがちな意識を改革し、国際的に活躍できる人材の育成、将来の我が国を支える技術者の育成に供することを目的とする。海外の大学、特に発展著しい中国の学生と直接接する機会をとおして、安定的な将来が幻想であるとの危機感を感じ、我が国の将来を支えるという意識改革のきっかけをつくることを目的とする。大連市は日系企業も 3000 社と多く、大連理工大学は本学の協定校であり、我が国やさらに本学と結びつきが深い。そのなかでソフトウェア（軟件）学院、機械工学部、材料工学部、計算機科学部は、日本語強化班があり、環境情報学府情報メディア環境学専攻とは授業提供や留学生受入など、深い交流実績がある。当プログラムで軟件学院、計算機科学部および機械・材料系学部に派遣された学生は、中国進出企業でのインターンシップの経験が豊富な環境下で、ソフトウェアや機械系開発などを中心として与えられた課題の達成を目指す。システム工学系研究室に派遣された学生は、経済発展の著しい中国におけるインフラ整備の現状と課題について、現地視察と現地学生及び現地専門家との意見交換を通して、これからの技術支援の課題を探る。共通の課題として、現地で開催される最終的な成果発表会でのプレゼンテーション、帰国後の報告会をとおして、異文化間、異専門分野間に渡っての交流の実践を学び、体験する。

(2) プログラムの概要

- プログラム期間
平成 28 年 9 月 6 日～平成 28 年 9 月 13 日（仮）
- 派遣先

大連理工大学（中華人民共和国）

- 募集人数

8名程度

- 日程（例。昨年の日程）

第1日目：開校式、オリエンテーション

第2日目：講義（大連市の歴史、中国伝統文化）

第3日目：講義、ワークショップ

第4日目：ワークショップ、企業見学

第5日目：大連市内見学

第6日目：旅順視察

第7日目：ソフトウェア学院見学、企業見学

第8日目：成果発表会

- 昨年の実施の記録

<http://media-env.ynu.ac.jp/>

「学生の皆様向け」→「相互訪問インターンシップ人材養成プログラム H27 派遣」

（3）プログラムの参加対象

研究科：環境情報学府

（4）参加費用

横浜工業会奨学金援助事業、本学 Y60 ショートビジット奨学金、および環境情報国際交流経費から、一定額を補助する。

（5）その他

当プログラム（派遣）参加者には、12月に実施予定の当プログラム（受入）で、ボランティア的な協力をお願いしております。